

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21
<http://www.create-k.co.jp>

クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741
FAX 075 (693) 6605
送料何冊でも240円



こどものてんかん

改訂版

基礎知識と予防接種（保育園・幼稚園・学校への告知・進路・行事などのテーマをわかりやすく解説。新薬承認、熱性けいれんなどに対する新しいガイドラインの制定をつけ改訂。 B5判88頁 1300円＋税

てんかん入門シリーズ5

皆川公夫 監修・執筆
公益社団法人日本てんかん協会編

猪狩恵美子・楠凡之・湯浅恭正・貝塚養護学校の実践を考える会 著
「子どもの貧困と養育困難」が深刻化の今こそ、子どもの健康と発達生活を守る確かな教育実践が求められている。

仲間とともに 育ちあう貝塚養護学校 寄宿舎のある病弱養護学校の実践記録



A5判240頁
2200円＋税



介護福祉学概論

●人としての尊厳ある暮らしの実現をめざす介護福祉実践を創る

地域包括ケアの構築に向けて

松田美智子・北垣智基・
南彩子・鴻上圭太・藤本文朗 著

社会福祉や保健医療などの関連領域で
学が学生、介護現場ではたらく人や家族
介護者、当事者に役立つテキスト！

B5判212頁 2200円＋税



北緯27度線で分断された 沖縄と与論島

6月23日は沖縄の慰霊の日。沖縄が本土に復帰する1972年より以前の1953年12月に、奄美群島は本土復帰した。それから沖縄復帰まで、日本の最南端の島が与論島だった。今では、人口6000人弱。東西5キロ、南北4キロの小さな島。標高の最高地が97メートル。

ヨロン駅は、1979年に国鉄の周遊券指定地に与論島がふくまれるようになって10周年となった記念に、鉄道のない奄美大島、沖縄県へのPRも込め、与論島の駅名標、モニュメントとして設置された。駅名標には、「鹿児島←→沖縄」と記載されている。この小さな島のドラマを追ってみた。



うっすらと沖縄本島が見える。

沖縄を返せ
わたしたちを返りて
民族のいかりにもあふれ
沖縄よ
われらどわれらの祖先が
血と汗をもつて
守り育ててな沖縄よ
われらはさげふ 沖縄よ
われらのものだ 沖縄は
沖縄を返せ 返せ
沖縄を返せ

沖縄北部の地域である^{へどみさき}辺戸岬が、ここから23キロ。北緯27度線をまたいだ与論島の南部に、沖縄返還の碑がある。碑の裏には、^{さかえ}荒木栄作曲、全司法福岡支部作詞の「沖縄を返せ」が刻まれている。「われらはさげふ 沖縄よ われらのものだ 沖縄は」。

基地なき沖縄の返還運動は今も続く。この27度線を越えるために、多くの犠牲を生んだ。



与論島の南西側に見える沖縄県の島々。ヨロン駅までの海岸線に遊歩道がつくられ、解説碑がある。沖縄祖国復帰海上集会のようすも紹介されている。



「十九の春」という歌がある。この歌は、与論小唄から派生したと伝えられる。1898年（明治31年）に与論島を襲った台風は、台風にも強いと作られた、木造のできたばかりの小学校の校舎も破壊した。その後の干ばつ。常食のサツマイモも足らず、餓死した子を墓に葬る力もなく、岩陰に置くしかないという事態だった。そして、集団移住が提起され、炭鉱の町へと長崎県の口之津^{くちのつ}、そして、三池^{みいけ}に渡る。そのときに、与論小唄は流れて、「十九の春」となる。詳細は本文で。

（写真・コメント 下野祇園）

●特集● 家族って、福祉ってなんですか？

家族ってなんだろう——18年の連載をとおして考える

川口モトコ 10

祖母親子・三代二人三脚

雨田正代さんに聞く 18

家族って、福祉ってなんですか？

——「家族」そのものをどう考えるか

岸本由起子 24

●トピックス●

総合社会福祉研究所30周年を祝う懇親会 案内

29

死と向き合う——高齢者をめぐる社会・家族とのつながり

小林克也 30

北緯27度線の北の島

与論島から二度にわたる集団移住を知る

下野祇園 34

日本の労働構造の変化から福祉労働（おもに介護労働）の

人手不足問題を考える

黒田孝彦 42

NPO法人いくの学園20周年記念誌報告会

山本八重子 50

第24回社会福祉研究交流集会 案内

52

●連載●

社会福祉研究に人生あり！

私の進路を方向づけた松川事件と松川裁判

相澤與一 58

相談室の窓から

万引きをしてしまう背景には（その3）

青木道忠 62

育つ風景

わかってもらえるということ

清水玲子 64

「助けて！」って言ってもええねんで！

設立5周年のごあいさつとお礼

徳丸ゆき子 66

ひととしてあたりまえに生きたい

読書とスポーツに明け暮れた中学・高等部

清田 廣 68

映画案内

アイヒマンを追え！ ナチスがもっとも畏れた男

吉村英夫 70

現代の貧困を訪ねて 30年ぶりの引越越し

生田武志 72

似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

逆擬人化するのじゃ〜！

ラッキー植松 74

ホームレスから日本をみれば

ありむら潜 76

花咲け！ 男やもめ

川口モトコ 77

●表紙の絵●
神門やす子



「居酒屋憲法」やろまい！

～愛知での障害者三団体のとりくみ～

社会福祉法人さくらんぼの会理事 **おおの 大野** **たけし 健志さん**

憲法施行七〇年の二〇一七年五月三日、安倍首相は「憲法九条に自衛隊の存在を位置づける」「二〇二〇年に新しい憲法を施行する」と読売新聞インタビュー記事等で表明しました。この動きを受け、六月の愛知障害者三団体会議（愛知県障害者〈児〉の生活と権利を守る連絡協議会・全国障害者問題研究会愛知支部・きょうさん愛知支部）において、憲法「改憲」の動きについて討議しました。

一九六七年に結成された障全協・全障研は、四つの権利の旗（生きる・教育・労働・政治参加）と、個人・集団・社会の三つの系を位置づけた発達保障研究と実践を、全国各地に提起してきました。一九七七年に結成されたきょうさんは、障害をもつ人たちが戦後、日本国民の一人として平和な社会で、基本的人権を行使する主人公として生きていく土台が日本国憲法によって支えられていることを根拠に、「働こう障害者も、働けるんだ私たち」と「憲法二七条」の具体化をかけた運動を展開してきました。現在きょうさんは、「新たな結集軸」として「あたりまえに働き えらべるくらしを」障害者権利条約を地域のすみずみに「を」をかけた、すべての基本的人権の尊重と公的保障を求める運動を展開しています。

こうした三団体の目的を再確認し、憲法にもとづくさまざまな実践・経営・運動が土台からくつがえされて手遅れになる前に、何か系統的な学習会をしなければいけないのではないかと「おかたい」学習会ではない方法で開催できないだろうか、「まなび」「かんがえ」「こうどう」することが必要ではないか、と話し合いました。そして、「居酒屋憲法」が誕生しました。



おおの たけし

1971年生まれ。1994年から名古屋市市中川区にて小規模作業所づくり運動に関わる。現在、社会福祉法人さくらんぼの会・理事。2017年5月から、きょうされん・常任理事。

「居酒屋憲法」は、二〇一七年九月に第一回「差別って何だ」憲法一四条」（田中伸明弁護士）からスタートし、十一月②「相模原事件って何だ」憲法一三条（高森裕司弁護士）、十二月③「一億総貧困社会って」憲法二五条」（森弘典弁護士）、二〇一八年二月④「ブラック企業って」憲法二七・二八条」（山本律宗弁護士）、三月⑤「戦争が障害者を産む」憲法九・一四条」（矢崎暁子弁護士）、四月⑥「立憲民主主義って何だ」（林翔太弁護士）と、計六回開催しました。金曜日の一八時半～二一時で、最初の一時間はテーマごとの講義。残りの一時間半は、お酒を呑みながらのグループワークです。毎回二〇～四〇名が参加しました。

田中伸明弁護士が講義のなかで「これから、国民的議論が起ころ。そのときに、障害者、障害者団体が自分たちの意見をもっていないと、置いていかれる。（私たち抜きに私たちのことを決めないで）のスローガンがあるが、意見をもっていないと、私たち（障害者）抜きで話が進んでしまう。憲法は、家づくりという土台。ここがしっかりしていないとどんな家も建たない。その上に障害者の法律等がある。憲法は、基礎をつくるもの」と話されていました。

森友学園問題、加計学園問題、自衛隊日報問題、セクハラ問題などで、当初予定していた憲法「改憲」スケジュールは遅れてきたと言われますが、安倍首相はあきらめていません。障害のある人たちと関係する人たちが、憲法について「まなび」「かんがえ」「こうどう」する時間が増えました。障害のある人たちにとって憲法がもつ意味を、自分の言葉で身近な人に伝えることを一つずつ積み重ねていきたいと思っています。第二弾「居酒屋憲法」も検討中です！



特集 家族って、福祉ってなんですか？

大阪市西成区釜ヶ崎の三角公園で毎夏開催される、淀川工科高校吹奏楽部の「たそがれコンサート」。釜ヶ崎のおっちゃんたちは、毎年高校生の演奏を楽しみにしています。

もうかれこれ 四〇年以上 経つかなあ

わしらの村は 冷害で みんな 冬場には 出稼ぎに行かないと
むすこやむすめを高校へも行かせられないもんな

あのときは 大阪で万博が行われたときだった

結構仕事もあって 困ることはなかったなあ

母ちゃんにも ちゃんと 仕送りしてたんだよ 何年かは

盆や正月にも最初は帰ってたなあ

けれどもよ だんだん 足が田舎に向かんようになってきて

送れる金も減ってきてよ

あれから 四〇年以上経っちまったね

「家族」っていわれても

むかしの囲炉裏を囲んでた姿は目に焼きついているさ

でも それは 昔の話なんだよね

なんでこうなっちゃったんだろうね

今年も淀工のにいちゃんらが ここで 「ふるさと」を演奏してくれる

あの子らが 毎年 ここに来て 「ふるさと」の演奏をすると

なんだか 目頭が熱くなってしまうんだよ

「家族」 忘れちゃったなあ

(編集主幹)